

## 令和元年度第1回佐倉市産業振興推進会議 議事録(要録)

日時:令和元年11月22日(金) 13時30分～15時30分

会場:佐倉市役所 議会棟2階 第4委員会室

出席委員	野口委員長、鈴木副委員長、市原委員、小川委員、岩淵委員、 羽根井委員、坂口委員、山崎委員、三橋委員 (欠席:福永委員、緒方委員、坂本委員)
事務局	(産業振興部)工藤理事、糸賀理事、二川部長 (産業振興課)鈴木課長、榎副主幹、塚田主任主事、利光副主幹、向後主任主事 (農政課)岩井課長、足谷主査
傍聴者	なし

開会 事務局により開会

## 1 産業振興部長あいさつ

## 2 委員紹介

新年度の人事異動に伴う委員の変更があった。

- ・識見を有する者として、千葉県中小企業団体中央会 田川幸宗氏→福永正昭氏に
- ・産業経済団体関係者として、佐倉工業団地連絡協議会 市川康雄氏→緒方和也氏に

## 3 議題 次期ビジョンに向けた課題整理と取組の方向性について

## (1)現状の課題について

## ①商工業

事務局から資料1に基づき、課題の整理状況を説明

## &lt;質疑応答、意見&gt;

A委員:人手不足はどここの事業者も同じかと思う。市内で外国人労働者がどれくらい働いているか。

→事務局:数字として把握できていないが、市内にはヤード等が年々増えており、外国人労働者は増加していると思われる。把握に努めたい。

→事務局:工業団地ではかなり多くの外国人労働者が働いている。また、JICAでは、東南アジアのIT人材を養成し、日本語を教え、日本企業で働いてもらおうという取り組みが始まっている。単純労働だけではなく、技術者の雇用が進み外国人人材も変わってくるので、施策の在り方を考える必要がある。

→B橋委員:外国人の方が増えるのは未知の世界だが、小規模企業までそうなっていくと思う。人手がいないと店を開けることもできなくなるので、人手不足対策で支援してもらえるとありがたい。

事務局:資料1 A(2)に「インターンシップ」を挙げているが、これは市内産業団体との意見交換の中で、建設業の方からご提案いただいたものを反映させたもの。業界のイメージが固定化しており、実際には働きやすく定着率が良い企業が求人しても、そのイメージで敬遠されるようだ。そこで、

中学生等の若い人に「市内にこんな企業がある」ということを知ってもらう機会として、企業見学やインターンシップであれば喜んで受け入れると言ってくれた。その橋渡しを産業振興部と教育委員会等で連携し進めていけたら、という提案。受け入れる側の企業のご意見はどうか。

→**C委員**: 当社では、教育委員会から「佐倉学」の依頼を受け、学生にお茶の話をして事業や地域のことを理解してもらっている。企業が学生を受け入れるのはとても良いこと。こういう機会を増やすことは、地元を愛する人たちを育てていくことにつながる。

商業者の現実には厳しく、後継者問題も簡単ではない。商業者の減少は地域にとってダメージが大きく、衰退する要因になる。具体的にどうすればよいか、商業者だけで考えるのではなく、地域で考えていかないといけない。

空き店舗活用については、外国人との契約トラブルの話も聞く。日本人との考え方の違い等が大きいのが原因であり、今後は慎重な対応が必要。

**B委員**: 後継者がいないと意欲につながらない。研修などを企画しても、バトンタッチする人がいない人はエネルギーを向けられない。このままでは商人がいなくなってしまうのではないかとマイナスに考えてしまい、同業者と話をして「あと10年元気にやるためには何ができるか」という話にしかない。その先のことを一緒に考えてくれる人がもっと身近にいると良い。

→**事務局**: 親族内承継については、税制改正によってほぼ無税で引き継げるようになっているので、その間にしっかりと承継できるように金融機関や商工会議所がサポートすることが大事。後継者がいない方は M&A センターに登録してほしい。事業承継は時間を要するので、「1年後に廃業する」と言われても相手はすぐに見つからない。なるべく早く登録してほしい。

また、マーケットや設備を持ちながら廃業しようとしている人に対して、創業者をマッチングできると良い。情報を察知して支援を早めに行っていく必要がある。

→**C委員**: 事業承継支援に関する具体的な情報が事業者に入っておらず、何をどうしたらよいかわからない。地元の有力店が、店舗・お客様つきで承継を希望していたが、結局店を閉めてしまったケースもある。

→**事務局**: 経営者と接している方、特に金融機関と情報を連携しながら、施策につないでいくことが大事。引き継ごうと思ってから動いても遅いことも多い。

→**事務局**: 事業承継に関する情報が入ってこない、という問題提起があった。

今後は、例えば国、県、市の支援策に関する説明会を開催したり、支援一覧をつくって HP やメルマガで周知するなど、重層的に情報発信をする機会を作っていきたい。

→**C委員**: 事業者にはインターネットやメルマガに慣れていない人も多い。分かりやすく伝えていく必要がある。

→**B委員**: 事業承継に関する情報も、空き家バンクのように情報がずらっと並べて見られると良いが。

→**事務局**: 事業承継はデリケートな情報なので、限られた人しか見られないようになっている。買いたい人、売りたい人の条件が合った時にマッチングできるため時間がかかる。早め早めに相談をしていくことが大事。

**A委員**: インターンシップや企業見学について、通常では企業が直接、市内の県立高校や大学に行

って交渉するが、そういうことができない中小企業のために市としてどのように支援しようという考えか。

→**事務局**: 現段階ではイメージだが、企業見学を行っている学校では、先生が企業を探すのが大変なので毎年同じところに行くという話を聞いている。市内企業で見学の受け入れが可能な企業を産業振興部でリストアップし、教育委員会を通じて企業を探している学校につなぐ、といったマッチングができるのでは。

→**D委員**: JA千葉みらいの直売所「しよいか〜ご」でアルバイトを30人くらい採用した。就活につながったかといえば疑問なところもあるが、実施して良かったと思う。

一方、来年度の職員募集は、人が集まらずに苦労した。地方都市においては、若い人は集まりにくいので、待つだけではなくこちらから発信していく必要がある。

→**A委員**: 全体の人数は減っているので、企業間の取り合いになる。域外から引っ張ってくるか、定年退職した方を再雇用するかしないと、地域でみたときには人手が足りなくなる。

→**D委員**: 就職活動している人には、企業の事業内容をあまり認識していない人もいる。インターンは具体的に業務を知る良い機会になる。

## ②観光

事務局から資料2に基づき、課題の整理状況を説明

### <質疑応答、意見>

**C委員**: 市内の観光資源が十分に活かされていない。個々の観光資源が、線、面になっていない。

また、観光行政はスピードを重要視してほしい。先日金沢に行ったが、商工会議所の中に観光協会があるため、トップダウンで連携してすぐに動けるそうだ。佐倉は、市・観光協会・商工会議所の3者が一体となったの活動や情報発信が出来ていない。

金沢では、インバウンドの取り組みも大いに参考になった。文化・歴史の重みに関心が高い欧米人をターゲットにした観光振興を行っている。

観光には、駐車場も重要。観光客に買い物をしてもらうことが大事だが、歩いてくる方よりもバスや車で来たの方が大きく買ってくれる。ここを見に来た人はこの駐車場というのを分かりやすくしてあげることが重要。

**E委員**: 観光振興を考える上でランドデザインは一步前進。なかなか良いアイデア。どんな観光地にするかが大事。全国から来てもらえるような観光地ではなく、首都圏から家族連れで来てもらい、一日満足できるというようなイメージ。その点で「となりの観光地 佐倉」というのは良いと思う。これに至るまで、どのように策定したのか。

→**事務局**: このランドデザインは、昨年度からの取り組みを検証していく中でたどり着いたもの。昨年度、東京駅と千葉県を結ぶサイクリスト専用電車を走らせるJR東日本の企画「B.B.BASE」をJR佐倉駅に停車させ、都内からサイクリストを呼び込む取組を行った際、リピーターのサイクルチームの話を知ると、安全に走れるサイクリングロードが整備されている印旛沼サイクリングロードは評価が高く、「佐倉は東京から近く来やすい」ということが分かり、観光のターゲット設定として「都心のとなり」というコンセプトがでてきた。

また、昨年から大手旅行会社のOBを市産業振興課に登用し、旅行会社と連携してツアー造成の営業に行ってもらっているが、近隣市からバスツアーを行うと50人くらいの集客になる。佐倉市だけで17万人、近隣市の人口を足し上げると164万人という大きなマーケット。近いので「気軽に」「繰り返し」来てほしいということで設定した。

→E委員: キャッチフレーズは重要。「となりの観光地 佐倉」は市としてこれで行くと決めたものか。

→事務局: 産業振興ビジョンを作っているところなので、まだ案の状態。

→E委員: 市から提案するだけでなく、策定プロセスの中で市民を入れてほしい。

また、情報発信という点でシティプロモーションが動き出した。4年前に地方創生計画の中に、「佐倉の魅力を発信する」ということで位置づけられた。行政改革や総合計画においてもシティプロモーションの重要性を入れている。シティプロモーションで重要なのは、佐倉の地域資源、新しい魅力を掘り起こすこと。年間5,000人くらいの転出者がいるが、市に愛着を持ってもらえるようになるとよい。シティプロモーションは、市民に対してはシビックプライドの醸成に繋がり、市外の人には観光の切り口になる。

観光情報を一元化する必要がある。観光のチラシにこれというものがない。見直したと思うが、まだ不十分である。

→事務局: シティプロモーションについて整理するため、シティプロモーション、広報、産業振興、教育委員会で情報連絡会議をつくって、パンフレット類の統合を進めている。情報発信を一元的にできるように動いているところ。

また、観光グランドデザインを作るにあたっては、観光協会との意志統一が必要なため、定期的にミーティングを行い意見交換している。市の観光基本施策を示し、連携をとりながら進めている。

→事務局: 情報をまとめた冊子として、最新の「佐倉ガイドマップ」がある。歴史・文化・スポーツ・イベントをまとめたこの冊子を今年の春先に作成した。都内でも配布しており、佐倉に来ていただけるようにPRしている。

F委員: ボランティアで、ひよどり坂の生垣の修理や城址公園、平井家住宅の整備などに携わっている。市民が少しでも参画できることが大事。どうやって参加していいかわからない人がたくさんいるように思う。

ひよどり坂の整備に参加した人はサラリーマンや主婦の方々に、もともと坂のことは知らなかったが、参加して以来、自分から周りの人に坂のことを話すようになったそうだ。ニュースに少しだけ取り上げられても大きな反響になるし、「自分で参加すること」が大きな渦になっていく。

「繁閑の差が大きい」という課題が取り上げられているが、ふるさと広場は公園なので、駐車場や入場料もなく、コンスタントに収入を上げるにはどうやってお金をとるかが難しいと思う。草ぶえの丘は5月・10月ピークということだが、本来は7月8月に来たいのでは。暑すぎるということであれば、例えば水の流れのあるものを用意するのはどうか。子どもは喜ぶ。子どもが来れば大人も来るので。そのほか、学校やスポーツクラブの合宿、企業のセミナーなどをうまく取り入れられると良い。ここに書いてあることを実現してもらえれば、より安定的かつ平準化してお客さんを取り込めると思う。

E委員: 佐倉市の観光をどうすればよいかを、専門家に聞いた場合、まず言われるのは「どういうデー

タがあるか」ということ。佐倉を観光地としてアピールするためには、どういう人たちがここに来ているかというデータが無いと、何を根拠にしているかが分からない。

→**事務局**:各施設の来場者数は把握しているが、その他のデータについてはイベントによる集客時のアンケート調査くらい。例えばチュールリップフェスタでは、「どこから来たか」「いくらお金を使ったか」という情報を取得しているが、平常時の施設では聞けていない。重要性は認識しつつも、予算やマンパワーの問題もあり、データは取れていない。

→**E委員**:お金がかからない形で、どういうデータがとれるかを検討してほしい。

佐倉のウィークポイントは宿泊施設がないということ。先進市では、複数の古民家や空き店舗を活用した宿泊施設の取り組みがある。佐倉には魅力的な古民家もあるので、こういうアイデアも一つではと思う。

→**事務局**:近隣では香取市で古民家を活用して取り組んでいる。検討したい。

### ③農業

事務局から資料3に基づき、課題の整理状況を説明

#### <質疑応答、意見>

**G委員**:今回の台風による災害で畑が一枚冠水し、10日間水が引かなかった。川の氾濫で農地はかなり水が入り、コンバインで細かくしたわらがハウスに入って、被害があったという話を聞いた。保険に入っている場合は大丈夫なのだと思うが、入っていない場合はどのような対処ができるのか。

→**事務局**

台風15号の強風で市内300軒の農家が被害を受けており、被害額は約5億円。再建に係り、農家の負担がほぼ1割(国3割、県4割、市2割)になる支援策が出されている。市農政課または農協に申し出ていただきたい。ビニールハウスなどについては共済に入っていない場合でも活用できる。ただし、再建支援を受ける場合は、共済に入っていたという条件がある。

**G委員**:「佐倉市における農業の現状と課題について」という会議に出席したが、農家数が2000年から2015年にかけて半減しており、耕作放棄地も併せて増えている。新規就農も増えているが、土地を借りたい方と貸したい方をつなぐ中間管理機構を利用している方が少ないのでは。

→**事務局**:中間管理機構は、書類作成など手間がかかるということで敬遠される方もいる。大規模農家では、借りる筆数が多ければ多いほど、地代を支払うのが大変になるが、中間管理機構はまとめて地代を払えるというメリットがあり、大規模農家では徐々に活用される方が増えている。農家の中にはまだ土地の貸し借りの契約を敬遠される方もいる。

**G委員**:新規就農者は、販売方法が問題。自分でお店を作って、販路を作ってしまうと楽になったという話もある。

→**事務局**:新規就農の方の中には、都内にレストランを出店し、佐倉産ケールを都内で提供している方もいる。付加価値をつけるので収益も上がる。最近だとレンコン栽培を勉強して始めている方もいて、農協も販売に協力している。今までにない新しい取り組みをされている方が増えている。

**D委員:**佐倉市の農業は立ち位置が難しいところ。都市型農業でもあるし、山間地農業の場所もある。兼業農家も非常に多い。新規就農の話が出ているが、JAは、生産者から預かったものを、いかに高く、効率よく売るかという使命がある。米や農産物の買い取りを行い、値段を決めて売り先を探している。市場の手数料が約1割引けるので、生産者にお返ししている。これについては、ある一定の量、品質を出荷する必要があるが、取り扱いが多いのはヤマトイモ。佐倉市の名産でもあるので、力を入れている。手数料はかかるが、理解していただき、いろんな直売所で販売させていただいている。寺崎に直売所があるが、千葉と習志野にある大きな直売所(しょいか〜ご)にシフトしている方も多いため厳しい状況ではある。

今回、資料に記載のある取組については、市と連携して実施する取り組み。この方策でいけば衰退も防げるのではと思う。生産者にいかにこちらを向いていただき、行政がそれをかき立てるか。

→**C委員:**佐倉のヤマトイモは有名だが、スーパーに行ったが、全然佐倉のヤマトイモがなく、多古のヤマトイモが山積みになっていた。最近、多古のヤマトイモをよく聞くが、佐倉より多いか少ないか。品質の違いはあるか。

→**事務局:**本市のヤマトイモの生産者は高齢化しており、出荷量も徐々に減ってきている。イノシシに荒らされてしまうというのも出てきた。生産農家は罾の免許をとって、罾をしかけて、電気柵で予防するといった取り組みも行っている。できる範囲での支援をしたい。

→**C委員:**品質の違いはあるか。

→**D委員:**佐倉市のヤマトイモは人気があり、品質も良い。

#### <全体を通じて>

**H委員:**県内他市町村の産業振興ビジョン等の策定委員もやっているが、課題整理は概ね網羅されているのではと思う。人手不足について、産業振興センターでは「ジョブカフェちば」を運営しており、15歳から39歳までの若者の就職支援を行っている。雇用情勢が良いため、ピークの際は4万人いた登録者が、現在は2万人になっている。その内の10%にあたる2,000人が佐倉市内に住む若者。企業見学会や社長による会社説明、就職したジョブカフェの先輩による相談といった取組をしているところ。

より深刻な人手不足、若年層が来てくれないという課題については、我々も重点事項としている。3か年の中期構想が来年からスタートするが、その内容が今回の佐倉市の案ではほぼ網羅されている。

また、我々の地域資源活用アドバイザーが佐倉 Y.M.O.プロジェクトに関与できたことをうれしく思っている。第二、第三のプロジェクトがあれば、是非、専門人材を活用いただければ。平成26年に事業がスタートした際のヒアリングでは、ヤマトイモのポテンシャルの高さを皆さん力説されていた。佐倉市で生産されたものは佐倉市で使ってもらい、お金を落としてもらおう。これが一番大きな成果につながるのではと思う。

よろず支援拠点のサテライト相談所を県内12エリア21か所で実施しているが、5年目に入り、利用者が頭打ちしている感がある。特に小規模事業者のためのサテライト相談所なので、関係機関の皆さん同様、さらにPRをしていくので、ご協力いただきたい。

**事務局:** 前回会議でいただいたご意見の中で、反映できるものについては位置づけさせていただいている(参考資料参照)。今回の意見についても次回の資料で繁栄させていただく。

## **(2)産業振興ビジョンの進捗状況について**

事務局から資料4、5、6に基づき、商工業・観光・農業分野の進捗状況について説明。

**委員長:** 進捗状況については、資料をご覧ください、お気づきの点があれば事務局までご連絡いただきたい。

## **4. その他(連絡事項等)**

**事務局:** 今後のスケジュールについて。産業振興ビジョンは今年度末までの策定を予定している。策定にあたっては、政策調整会議、パブリックコメントで庁内外から意見をいただくことから、2月上旬には素案を固める必要がある。このため、次回会議は、事務局で産業振興ビジョンの素案を作成し、1月中旬～下旬にかけて開催したい。改めて日程調整するのでご協力願う。

**閉会**